

# くらふと

## 県育協だより

発行

鳥取県子ども家庭育み協会

広報委員会

第40号

## 第69回中国地区保育研究大会

鳥取県子ども家庭育み協会  
副会長 佐藤 比登志

月11日（木）～12日（金）鳥取県立とりぎん文化会館に於いて「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざしてをテーマに、開催されました。

開会式では、来賓の皆様の祝辞に統じて、前年度大会処理報告が岡山県保育協議会 服部剛司会長より報告されました。全国保育協議会 伊藤唯道副会長による基調報告では、すべての子どもたちの誕生から幼児期までの「はじめの100か月」から生涯にわたるウェルビーイングの向上を目的とする幼児期の子どもの育ちに係る基本的なビジョン（初めの100か月の育ちビジョン）概要について、また、このことに基づく施策の推進について、こども家庭庁が司令塔になり、具体策を一體的・総合的に推進することなどが報告されました。こどもまんなか実行計画2024の概要については、多岐にわたる盛りだくさんな内容で、国の本気度を感じることができました。

休憩を挟んでそれぞれのテーマによる分科会が開かれ、有意義な会でたくさんの学びをいたいたいと参加者からの声がありました。

2日目の記念講演では「安心感の輪」

が拓く子どもの未来と題して、東京大学大学院教育学研究科の遠藤利彦教授にアタッチメントと非認知的な心の発達についてお話をいただきました。安心感の輪について、物理的に「くつ正在していること」そのものよりも「いざとなつたらいつでも戻ってくつける」という感覚の重要性について、またそのことにより探索・冒險・自発的遊びにつながるということ、「安心の

閉会式では、鳥取県子ども家庭育み協会 大橋和久会長より閉会の挨拶とともに時期開催地であります第70回中国地区保育研究大会広島県大会中本悠哉実行委員長へバトンが渡され、花束贈呈とともに大会の幕が閉じられました。

分科会助言者の七木田敦先生、重村美帆先生、高橋千枝先生、齋藤頼陽先生ありがとうございました。大会係員をはじめたくさんの方々にお世話になりました、ありがとうございました。来年、広島で会える日を楽しみにしています。



県別参加者数

県別	参加者(人)
島根県	66
岡山県	36
広島県	31
広島市	31
山口県	43
鳥取県	153
合 計	360

## ▽第1分科会

「配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて」

助言者

広島大学大学院人間社会科学研究生科  
教授 七木田 敦

提案者

広島県 常石すくすくハウス  
保育教諭 中村 賀世子

保育教諭 大久保 小百合



の1対1の配慮を必要としていたA児が自然にみんなの中に馴染んでいた一年間の実践報告がありました。

発語が少なく「泣く」ことで気

持ちを表現したり、抱っこを求めたり、音が苦手で友だちがいる保育室に入れなかつたA児の困り感

や不安を保育者が受け止め、抱っこを求められれば抱っこし、静か

な部屋で過ごすなどすることで安心して生活できるようになったこ

と。A児と保育者の関わりを見て

いたC児がA児にハンドタッチを行なうべきかについて研究を深め

るという趣旨のもと研修が始まりました。

はじめに、常石すくすくハウス

て発表されました。

次に、助言者の七木田敦先生が、

インクルージョンの考え方、見て学ぶ（モデリング）ことの重要性、支え合う保育集団の必要性について講義されました。

インクルージョンは、配慮が必要な子どものできることを増やし

定型発達に近づけていくことではなく、私たち自身が相手のことを

考えて行動を変えていきながら共に成長していくことがとても大切であるとされました。

配慮の必要な子の苦手なことばかりではなく、プラスの特性を見つけることが大事。問題行動ばかりに着目すると、問題行動をやめさせたいという保育者の思いが強く

なり、得意なことが見えなくなってしまう。その行動の原因を取り除き（合理的配慮）適切な環境を作ることが必要である。周りの友だちと支え合いながら生活、活動する中でモデルとなる子どもの姿を観察、模倣することでも学習は

成立する。そして、良いタイミングで褒められたり、認められたりすると満足感や楽しさを味わうことができる。自分のペースで選び充実した時間を過ごすことが重要であると話され、配慮が必要な子ども周囲の友だちも保育者も支え合いながら互いが成長し合うインクルーシブ保育が基本であり、支え合う保育集団による多様で柔軟な保育の実践がインクルーシブな社会を構築することにつながると締めくくられました。

の「頭で学ぶよりも、温かく寄り添うことがどんなに大事か、この発表で発信できたらと思つていました。」との言葉に、会場の参加者より温かい拍手で分科会が終了しました。

記録者

わかばこども園 中原 聰子  
育成こども園 永瀬 美幸

## ▽第2分科会

「保育者の資質向上を図り、保育現場の魅力を発信する」

助言者

宇部フロンティア大学短期大学部  
保育学科 准教授 重村 美帆

提案者

山口県 宇部市立第二乳児保育園  
保育士 三浦 久美子

山口県 宇部市立西岐波保育園  
保育士 綱谷 健太

次に、助言者の七木田敦先生が、インクルージョンの考え方、見て学ぶ（モデリング）ことの重要性、支え合う保育集団の必要性について講義されました。

インクルージョンは、配慮が必要な子どものできることを増やし定型発達に近づけていくことではなく、私たち自身が相手のことをすくすくハウスの三須園長先生

承がなされにくいういう課題点か

ら、「研究部会わらべうた」を立ち上げ、「子どもも大人も『楽しむ』わらべうた」を研究テーマとし実践的な研究が進められてきたと発表されました。各園でわらべうたの園内研修や、年間計画を作成・再検討して日々の保育に取り入れるとともに、振り返りや考察を繰り返して研究する中で、子どもを見る視点が広がり保育の質の向上につながったと報告されました。

続いて助言者の重村先生より、「子どもも保育者も楽しむわらべうた」から考えるそれぞれの主体性」と題し、①保育に関わっている人たちそれぞれ誰が・どのように楽しんでいるのかがポイントである。(2)時代とともに価値観が変わっていく中で、新しい時代の子どもたちが今ある価値観を正しいかどうか、自分で判断できる力をつける保育を日々私たちは行っているということを意識していく。

③子どもは生まれた瞬間から大きな好奇心を抱き探求を始めていくものであり、その世界を守つていふことが保育の原点である。④保育者の主体性とは、本当に子どものためになっているのか常に問い合わせることである。と指導助言を

見れる視点が広がり保育の質の向上につながったと報告されました。

続いて助言者の重村先生より、「子どもも保育者も楽しむわらべうた」から考えるそれぞれの主体性」と題し、①保育に関わっている人たちそれぞれ誰が・どのように楽しんでいるのかがポイントである。(2)時代とともに価値観が変わっていく中で、新しい時代の子どもたちが今ある価値観を正しいかどうか、自分で判断できる力をつける保育を日々私たちは行っているということを意識していく。

③子どもは生まれた瞬間から大きな好奇心を抱き探求を始めていくものであり、その世界を守つていふことが保育の原点である。④保育者の主体性とは、本当に子どものためになっているのか常に問い合わせることである。と指導助言を

こどもの「たのしい」のためにできること、保育のあり方について考える機会になりました。

記録者

河崎保育園  
白兎保育園  
岡田由衣  
松浦美保子



### ※ 第3分科会

「子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくりにむけた関係機関とのネットワーク」

助言者

東北学院大学文学部教育学科  
准教授 高橋 千枝

提案者

鳥取県 鳥取市立浜村保育園  
植田 京子／田中 映子

続いて、「どんどんばし」遊びを体験し、会場が一体となつた後には、事例をもとに参加者の気づきをグループで討議、共有し、活発な意見交換が行われました。こどもも保育者も「楽しさを自分で選びとる」保育を目指していくこと、こどもが楽しむためには保育者が楽しむことが大切であると助言をいただきました。

最後に、いかに保育者がこどもに寄り添い主体性を引き上げていくか、一緒に「楽しい」を作り上げていくかが保育の魅力になるとお話しから、広い視点を持つて

私自身、「一番、こどもに育てたいこと・受け止めてほしいことと・根っこに持つてほしいことは何か」ということを考えさせられ、ひとつひとつをつなぐ育ち合い・関わり合いを真に保育園は担つているのだという原点に立ち返った想いで聴いておりました。



保育園のこどもたちからの時節折々の季節の便り・小さな発信の数々が、関わり合う人々の心の育ちから地域のセーフティーネットづくりまで、保育園がどつしりと地域の社会資源として根を下ろしている実践報告であり、まさに保育園の底力を見る思いでした。こどもも職員も保護者も、地域に共に生きるひとたちが、地域防災力をも何重にも厚み・強さ・継続力、

地域の輝きを増していくのだろうな、そんなイメージを持ちました。過疎化・少子化の影響により新興住宅地が一代限りで空洞化する地域もある中で、何世代にもわたって住み続ける・子育てできる場所になり得る地域づくりへのヒントにもなりそう。

今、自園がやつてているこの連携・してきたこと（積み上げてきたこと）・今のやり様・このつながりで良いのだな、振り返りを生かすことはもちろん必要だけれど、今まで頑張らなくて何か目新しいことをしなくてもいいのだと、そんな風にその場にいた参加者はみなさんが思えたのではないでしょうか。

そして、高橋先生に感謝申し上げます。理論（指針を手掛かりにした解説等）と実践をわかりやすくつないでくださったこと、そして園・保育者たちの頑張りへのエールもありがとうございました。分科会最終盤、どの参加者たちの顔にも嬉しさとホッと安心したような安堵の表情が浮かびました。

当初、討議の時間を設けていたのですが、参加者から実践詳細や周辺事情について、「もう少しこことを教えて」と質問や感想が活発に出た。先生の豊かな解釈が彩りを添えて、今後の園生活・保育の広がりや課題的なことへも解決や取り組みの糸口を与えてくださったよう思います。

最後に、まとめて高橋先生が

おっしゃっていた「何のための保育か、子どものための保育ですね」について、園で働く私たち自身も確信を持っていえる本当の「こどもまんなか社会」が実現することを願つて：。

記録者

夕日ヶ丘保育園 坪栄 晓子  
うつぶき保育園 牧村 紫織り

## ▼第4分科会

【演劇表現【開催地企画】】

講師

特定非営利活動法人鳥の劇場  
副芸術監督・俳優 齋藤 賴陽



第4分科会では、「鳥の劇場」の副芸術監督であり俳優の斎藤賀陽先生を講師に迎え、「演劇表現」と題して講義やグループワーク、実演指導を受けました。私たちは普段、物を扱う際に特定の動作を行いますが、これにより、観客に対して重い物を持っているという印象を与えることができます。一方、軽い物を持つていてそれを表現する場合は、片手や手のひらで軽く持つ動作を行います。例えば、羽根や紙のような軽い物を扱う際に手のひらで軽く持ち上げる仕草をすることで、その軽さを表現します。風船のように浮き上がる

イメージと異なるため、想像を放棄し、伝わりにくくなります。

このようなポイントを学び、実際にお題をもつて自由に演劇をすることも、分科会の中で行われました。各グループでどのようにして観客に伝えるかを考えながら、自分たちの保育園での演劇指導はどう活かせるかを模索することができました。

力を入れ、腰を沈める動作を行います。これにより、観客に対して重い物を持っているという印象を与えることができます。一方、軽い物を持つていてそれを表現する場合は、片手や手のひらで軽く持つ動作を行います。例えば、羽根や紙のような軽い物を扱う際に手のひらで軽く持ち上げる仕草をすることで、その軽さを表現します。風船のように浮き上がる

ことができる気に気づかされまし

記録者

さとこども園 木村 横文  
梅檀保育園 西村 孝太

ていることを示すことができま

す。これらの動作を通じて、観客の想像力を刺激し、持っている物の重さや性質を伝えることが重要です。観客が意図どおりに想像してもらうためには、どのような情報をお伝えかを考えながら、動作を工夫することができます。

また、観客が想像を放棄してしまった場合、伝えることが困難になります。例えば、「海」というシーンを伝える場合、海辺で寝そべる人を表現する際には、その人が浜辺に寝そべり、足は海側を向いていると観客が自然に想像するでしょう。しかし、演じる人が海側に頭を向けてしまうと、観客の

# 各研修会報告

## 主任保育士研修会

こやまこども園 中原 美喜



掛札先生

6月6日（木）にWEBによる主任保育士研修会が開催されました。掛札逸美（心理学博士）先生をお迎えし、「深刻事故の予防。安全面から向上させる『保育の質』」と題してお話を聞かせていただきました。

大前提には子どもの命を守るのは大人の責任であることや、事故を予防するために具体的なルールを教えることは大切だが未就学児は自分でケガにつながる行動の静止が難しく、それが死につながる

遊びが始まる時期でもありますが熱中症は命にも関わってきますので、暑さ指数28、気温30度以上になると度、湿度を調節した室内でしっかりと遊ばせることが大切です。暑くても以前は外で○○していまして、○○な経験をさせたい等の保育者の主観的な価値観の押し付けにならないよう保育の価値とケガのリスクの線引きが重要です。暑さ指数、気温の目安になる数値はデータを基にした根拠のある数値であることから、例えば水遊び等

現在、今の科学を基に実践と結果を集めて1冊にまとめる作業をされていることをお聞きしました。そこから更に学ばせていただき、大人の責任として子どもたちの命を守ることを大前提とした完全な保育のために環境や内容の見直しを行い、保育の質の向上につなげていきたいと強く思いました。

講演の中で「なにげなくやっていることが保育士はすごい！」「もっと周りにアピールしていくべきだ」と保育士の役割の素晴らしさを繰り返し伝えてくださいました。

講演の中で「なにげなくやっていることが保育士はすごい！」  
「もっと周りにアピールしていくべきだ」と保育士の役割の素晴らしさを繰り返し伝えてくださいました。

6月、10月など涼しい時期に計慮した子どもたちの成長発達のための活動を考えていくことが保育の質に直結すると話していただき、私たちの意識改革が必要だと感じました。ケガや誤飲などに関しても、ケガは結果であつて、ケガにつながる出来事はたくさんあること、その出来事から検証・検討を行い、価値とリスクの線引き

## 保育士研修会

のぞみ保育園 福本 麻紀

保育士研修会が6月24日（月）福祉人材研修センターにて開催され、鳴門教育大学大学院学校教育研究科 幼児教育コースの佐々木晃教授から、「専門性を生かした保育の展開」と題して、ご講話をいただきました。保育現場の視点から捉えた保育者の専門性や非認知能力の育成、今後求められる保育のあり方など、ご示唆をいた

た。また、「主体性の根っこは自己肯定感」というお話では、自己肯定感・自尊心がベースにあるから自信が育っていくが、自信だけがあつても、自己肯定感は形成されない。正しい自分の守り方が分からなかつたり、自分で判断できなかつたりする子どもの現状は、自



佐々木教授

尊心の低さが要因になることもあります。すると研修をとおして気づかされました。子どもたちのいろいろな体験をおいて身に付いた「できた」や成長を保育士がリスクペクトする関わりや、ポジティブな言葉がけが、自己肯定感を高めることにつながっていくことを再認識し、その時々に必要な関わりや経験を大切にしながら日々の保育を積み重ねていきたいと思っています。

心情・意欲・態度の非認知能力を育てる日本の幼児教育は世界最先端といわれています。「子どもたちの未来を、私たちは担つていい」と話された佐々木先生の言葉を胸に刻み、今回の学びを職員間で共有するとともに、責任と専門性を磨き続けながら、子どもたちの健やかな育ちにつなげていきた

尊心の低さが要因になることもあります。すると研修をとおして気づかされました。子どもたちのいろいろな体験をとおして身に付いた「できた」

第1回食育研修会

白ゆり保育園  
山下 成美

第1回食育研修会が6月24日（月）～7月3日（水）までオンラインで配信されました。

一般社団法人 母子栄養協会

食事介助をする際には、

という形状が危険な食材、粘着性の高い食材、固すぎる食材などの知識をしつかり持つことの大切さを改めて感じました。子どもたちに、食事時の食べる姿勢、急いで食べない、しつかり噛んで食べるなどを日頃から伝え、事故防止につなげたいと思います。

尊心の低さが要因になることもあります。すると研修をとおして気づかされました。子どもたちのいろいろな体験をおいて身に付いた「できた」や成長を保育士がリスクペクトする関わりや、ポジティブな言葉がけが、自己肯定感を高めることにつながっていくことを再認識し、その時々に必要な関わりや経験を大切にしながら日々の保育を積み重ねていきたいと思っています。

心情・意欲・態度の非認知能力を育てる日本の幼児教育は世界最先端といわれています。「子どもたちの未来を、私たちは担つていい」と話された佐々木先生の言葉を胸に刻み、今回の学びを職員間で共有するとともに、責任と専門性を磨き続けながら、子どもたちの健やかな育ちにつなげていきた

母子栄養指導士・管理栄養士  
野陽氏を講師に「乳幼児における誤飲誤嚥の事故防止」についてご講演いただきました。

- ・ とができる子どもの意志にあつたタイミングで与える
- ・ 子どもの口にあつた量で与える（1回で多くの量を詰めすぎない）
- ・ 食べ物を飲み込んだことを確認する（口の中に残つてないかを注意する）
- ・ 汁物などの水分を適切にあたえる

初任・初級保育士研修会①が7月24日に、同研修会②が8月28日に行われました。

## 初任・初級保育士 研修会(1)(2)

「を実践する」をテーマに ZOC Mでご講演いただきました。川辺先生が撮影された保育の写真をもとに、子どもの育ちや学び等、保育の中で大切にしたいことについてお話を聞きました。グループに分かれて、意見交換も行いました。子どもたちの思いや成長に思いを写真を見ながらそこに写つている

が、研修会②ではZOOM開催ということもあり、緊張感が再来し活発な語り合いに発展するまで少し時間がかかりました。それでも、少人数で十分な時間が設けてあつたことから、じっくりと語り合うことができました。

駆せ、思い思いの保育について語り合いました。

研修会②では、全員ZOOMでの開催でした。事前に実際の保育の写真を撮影してもらい、それについて発表し合い、意見交換をしました。青年部員がファシリテーターとなり、各々の写真をもとに、子どもたちが何を感じ、考え、何をしようとしていたのか、それを受けて保育士である私たちとは、何を感じ、どのように保育を展開し実践していくのか発表し語り合



保育現場から離れ、保育の一場面を写真で切り取り、それについて違う園で働く保育士が保育について語り合えることは貴重な機会です。それぞれの保育に対する思いを大切にしながら語り合うことの面白さを感じた研修でした。

いました。研修会①と同じグループなので、顔見知りではあります。が、研修会②ではZOOM開催ということもあり、緊張感が再来し活発な語り合いに発展するまで少し時間がかかりました。それでも、少人数で十分な時間が設けてあつたことから、じっくりと語り合うことができました。

加茂保育園 古前 智美

8月3日（土）エースパック未来中心において、第1回障がい児保育研修会が開催され、鳥取県立米子養護学校教育支援部教育相談担当教諭・自立活動エキスパート山内章平氏を講師に迎え、「学びの土台を育てるとの大切さ」

## 第1回障がい児保育研修会

いて」と題して、ご講演いただきました。

現在、生活環境などの変化や経験不足などから、診断のないはずの子でも脳のバランスを崩し「落ち着きがない、姿勢が崩れる、動きがぎこちない、感情のコントロールが難しい」などの問題が生じる子が多くなってきています。人の身体も脳も発達の順番があり、その順番を飛び越えてしまふと、発達に抜け落ちが生じ、発達の土台がしつかりできずバランスを崩してしまいます。例えば、脳は（①からだの脳②おりこうさん脳③こころの脳）の順に発達していくますが、からだの脳が育っていない段階で早期教育や机上學習をしていくと脳のバランスを崩してしまったため、発達障がいのような行動があらわれ、勘違いされる「発達障がいもどき」の子が多くなっています。また、発達プロセスが不十分のまま身体が成長すると、本来は徐々に出現しなくなるはずの原始反射（モロー反射や把握反射など）が残存してしまい、発達のプロセスにスケが生じてしまうことがあります。「落ち着かない、姿勢が崩れる」など同様の問題が



山内教諭

具体的な実践事例も交えてのお話をや、保育者同士で反射の残存確認をし合つたり固有覚を体験したりする中で、それを分かりやすく知ることができました。子どもたちの気になる行動の原因がどこにあるのかを感覚統合や発達の段階の視点からも考え、今、その子がどこに躊躇しているのか、どんな経験が必要なのかを見極め、「からだと認知はつながっている」といふことを頭に置きながら活動や遊びの中で感覚を育てる運動などを楽しんでいきたいと思います。

生じる。原始反射は、子どもだけではなく大人でも残存していることがあります。が、原始反射を統合するには、本来、発達の中では現れる反射の動きを繰り返すことが必要だそうです。

**施設の概要**

伯耆町立こしき保育所は鳥取県西部の米子市から車で20分圏内の場所に位置し、園庭から大山を望む自然豊かな環境のなか日々の保育を行っています。

**保育理念**

子ども・子育て支援制度に基づき、保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図る。

**保育方針**

子どもの特性に配慮した保育環境を提供し、「生きる」基礎となる力を育成する。

**保育目標**

- ・様々な事に興味関心を広げ、遊びや生活の中で自分で選び自分で決める。
- ・自分と異なる考え方や思いに気づき、折り合いや協力をしようとする。
- ・生活に必要な身の回りのことを自分でする。元気な返事ができる。

**所在地:** 鳥取県西伯郡  
伯耆町大殿2574番地  
**定 員:** 140人  
**所 長:** 小椋 計子 (おぐら けいこ)

**めざす子ども像**

生活や遊びを通して生きる力の基礎を身につける。  
～明るい子ども・がんばる子ども・助け合う子ども～

## 園を知る3つのポイント

ポイント  
1

### 異年齢での交流活動



異年齢活動や友達との関わりを楽しむことを通して子ども達の育ちあう力（コミュニケーション力、遊びを広げる力）を育てています。人と関わることの楽しさを経験することで自然と思いやりの心や自己有用感を得られることを期待して活動をしています。

ポイント  
2

### 食育活動を通して



地域の方にも協力していただき、菜園活動を行っています。また子ども達が世話をして育てた野菜でクッキングをしたり、毎月の食育週間の取組みで食への関心を深め、生きる力の基礎を育んでいます。

ポイント  
3

### 身近な地域、自然との触れ合い



町内の身近な場所に豊かな自然環境があり、園外保育に出かけて地元の季節の自然と触れ合っています。また保育所周辺の散歩にたくさん出かけて地域のことを知ったり、身近な自然環境とたくさん触れ合って地域の自然を楽しんでいます。





## うっちー先生のえほんばなし⑫



絵本作家の中で【夫婦で絵本作家】は珍しくありません。詩人谷川俊太郎氏と『100万回生きたねこ』(講談社)佐野洋子氏は夫婦(だった時がある)別々の作品を出版しています。

『せんろはつづく』(金の星社)の竹下文子氏と鈴木まもる氏のように、共著があり、それぞれの作品もあるという形もあります。今回のえほんばなしでは、夫婦で共同制作をしている絵本作家に注目!!

### tupera tupera

亀山達也氏と中川敦子氏【アイデアとプラン】

#### 絵本紹介⑯

絵本作家20周年を超えてますますクリエイティブに活動を展開するtupera tuperaは、コラージュ技法を中心に、さまざまな表現方法で次々に新しい作品を発表しています!

制作担当は亀山氏がアイデアを中心に中川氏が作り上げていきます。アイデアとプランの割合は作品によって違います。

『パンダ銭湯』(絵本館)『しろくまのパンツ』(ブロンズ新社)など

### 「きゅうきゅうブーブー」

tupera tupera 岩崎書店/2021年

表紙からはなかなか想像できないけども、題名から連想することはできる!史上初のキューブ型絵本。正立方体の形は飾って可愛い、読んで楽しい♪中身も繰り返しリズムがあり読みやすく…しっかりとオチもある!

### 『ミライチョコレート』

ザ・キャビンカンパニー 白泉社/2024年

#### 絵本紹介⑳

今から1000年後、緑化しまくった地球が舞台。便利になりすぎた未来で女の子が手作業でチョコレートを作る物語。自分で苦労して手を使い体を使い作り上げる大切さが込められています。

### ザ・キャビンカンパニー

阿部健太郎氏と吉岡紗希氏【無機物と有機物】

生まれも育ちも住まいも大分県。絵本作家15周年を迎え、大規模な展覧会が全国を巡回中。ベニヤ板をキャンバスにして二人が同時に絵を描きこんでいく唯一無二のスタイル。阿部氏が直線的、吉岡氏が曲線的な絵を担当しています。初期作品からどんどん絵柄が変化していく今後も注目!

『しんごうきピコリ』(あかね書房)『ポケモンのしま』(小学館)など

### はらぺこめがね

原田しんや氏と関かおり氏【食べ物と人や食器】

#### 絵本紹介㉑

絵本作家12年。これまで出版した絵本はすべて『食べ物と人』がテーマ。原田氏が食べ物の絵を描き、関氏が人や食器などを描く。本物以上のシズル感たっぷりな食べ物と独特な色彩の人物やデフォルメされた食器によだれが止まらない。

『にくのくに』(教育画劇)『みんなのおすし』(ポプラ社)など

### 『たべてうんこしてねる』

はらぺこめがね 岩崎書店/2023年

『食べ物と人』がテーマの究極の形のひとつ。食べてウンコして寝る。「それが出来ていれば人間充分とちゃいまっか?」と投げかけられています。シンプルだからこそ深みがある!



今回紹介した3組の他にもまだたくさん夫婦ユニット絵本作家がいます。夫婦で絵本作家をすることでイメージをより膨らますことができたり、お互いの長所を活かした制作活動をしたりしています。【三人寄れば文殊の知恵】という言葉がありますが、二人でも『 $1+1=2+\alpha$ 』ということなのでしょう!

保育園でも子どもがひとりで遊びこむことで、楽しさが深まっていく姿がありますが、友達や保育士と共に活動していくことで遊びやイメージが広がっていくこともあります。もちろん!ひとりではないことでのトラブルやケンカもありますが、それも含めて大切な営みと考えます。

今回注目した絵本作家のみなさんとお話しする機会がありますが、それぞれ「ケンカ?しますします!」と同じように言われます。それでも同じ仕事を同じ空間で行う中で、お互いに刺激しあい、高めあっているんだろうなあ。これからもたくさんの楽しい作品を楽しみにしています♪

# せんせい、いつもありがとうございます

~保育士の先生に日々の感謝の気持ちを伝えてみませんか?~



若者や社会全体に向けて保育の魅力を発信し、保育人材の確保・定着を進めるため、保護者や園児等から保育士や幼稚園教諭への感謝の気持ちを伝えるメッセージ投稿を募集したところ、延べ187件の投稿をいただきました。投稿いただいた皆様、ありがとうございました。

なお、いただいた投稿内容は県ホームページで公表しているほか、県庁、県社会福祉協議会、県立図書館、その他イベント等で展示する予定です。【鳥取県子ども家庭部 子育て王国課】



## <取組概要>

- 1 投稿内容 保護者・園児・卒園児等から保育士・幼稚園教諭への感謝・応援メッセージ
- 2 投稿期間 令和6年7月18日～8月31日
- 3 投稿件数 187件



※投稿いただいたすべてのメッセージは県ホームページからご覧いただけます ⇒



## <いただいた投稿内容（一部抜粋）>

先生方がとても優しく気を使ってくださったり、一人一人を大切にされている事が伝わってきます。小さい子から卒園児まで温かく接してもらえホッとするしいつでも相談しようと思える場所になっています。感謝です。（鳥取市、名無しさん）	赤ちゃんの頃からお世話になっている娘は、先生方のことが大好きです。いつも子どもの気持ちを大切に、それぞれのペースに寄り添ってくださる先生方に感謝でいっぱいです。いつもありがとうございます！（鳥取市、ぎょうざさん）
2歳の息子のママです。色々な言葉を少しずつ覚えて喋り出しました。子どもの気持ちが分からず困ることがあります。先生方から学んだことを家で披露する姿を見ると嬉しくなります。先生ありがとうございます！（米子市、のりんごさん）	日頃から感謝の気持ちでいっぱいです。地元関西から離れて暮らしておりますので気軽に頼れる親族がいない中、息子と私にいつも笑顔で挨拶してくれる先生方がいる事が私の心の支えです！いつも有難うございます！（米子市、SUNさん）
色々な特性をもっている長男ですが、本人の意思を尊重しながら、みんなが楽しく園生活を送れるよう様々な工夫をしてくださってありがとうございます。次男は熱があつても玄関で靴を履くくらい保育園大好きです。（倉吉市、たくりんさん・ひかりんさん）	毎日の活動や制作等、「どうやったらそんなアイデアが思い浮かぶの!?」と驚くような趣向を凝らしたものばかりで、感動しています。保育士の先生は、初めての子育ての親にとっては特に心強い存在です。（境港市、みむさん）
せんせい、たくさんだっこしてくれてありがとうございます。こわいとき、てをつないでくれてありがとうございます。えほんをよんでもくれてありがとうございます。せんせいみたいになりたいからほいくしさんをめざします。ゆめをくれてありがとうございます。（湯梨浜町、卒園生さん）	毎日保育園行きたい！〇〇した！先生大好き！など保育園での出来事を教えてくれるので、本当に今の園に預けてよかったですなと思います。育児についての相談事も聞いてください感謝でいっぱいです。ありがとうございます。（日吉津村、かいかいさん）
「…先生と…先生と遊んだ。」と教えてくれる子どもたち。毎日お友達の名前よりも先に先生方の名前が出てきて、心から信頼してるし好きなんだなあと感じて感謝しています。いつも本当にありがとうございます。（大山町、すばなるさん）	先生方には感謝しかありません。家ではなかなか出来ないことを子ども達に経験させてくださいありがとうございます。毎年発表会や運動会も、準備が大変だと思います。子どもたちのためにありがとうございます。（伯耆町、名無しさん）

給食を食べながら3歳の  
女の子が突然「○ちゃん、  
ゴリラになりたい！」  
と発

夏の暑さにも負けずにさ  
つま芋が畑に育つていま  
す。どんな芋ができるのか  
楽しみにしている子、つる  
を使つて綱引きがしたい子  
子、畑の虫探しをしたい子  
ど、芋掘りへの期待が膨ら  
んでいます。私は：焼芋  
が楽しみです！（S・M）

今年も猛暑でしたね。先  
日年長の男の子が「へラク  
レスオオカブト」を家から  
持つて来てくれて、園中大  
騒ぎでした。世界最大の種  
といふことで、まあ大きくな  
ってパワフル！夏バテ気味の  
心身にいっぱい元気をも  
らつた夏でした。（S・M）

去年の12月27日に保育園  
の隣の家の庭にヒマワリが  
咲き思わずシャツターを  
切つたことを思い出しまし  
た。季節外れものでした。  
気象の変動の影響かな。  
猛暑とか局所的な大雨とか  
大雪とかもあるし。

（H・S）

## 編集後記

言。動物の話題で盛り上  
がっていたわけでも、バナ  
ナを食べていていたわけでもな  
いのに、まさかの宣言に思  
わず笑ってしまいました。  
子どもの思考回路は無限大  
ですね。（M・M）

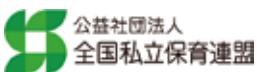
今年は、5年ぶりに、夕  
涼み会を開催することが出  
きました。去年は、大雨警  
報が発令され中止となり、  
今年こそはと時期を8月の  
終わりにずらし開催を予定  
しました。が：まさかの、  
大型の台風接近、のろのろ  
台風でなんとも遅い、祈る  
しかありません。朝、カーテン  
を開けると陽の光が差  
し込んできました。祈りが  
通じました。5年ぶりに、  
園庭に子どもたちを中心  
に笑顔が生まれる光景が広が  
りました。待ち望んだ、夢  
のような時間でした。（K・N）

高温が長く続き、酷暑と  
言われた夏でしたが、先日、  
秋の味覚の梨をいただき、  
旬の食材を食べることで季  
節が巡る喜びを感じまし  
た。季節のパワーを日々の  
暮らしの中に取り入れて四  
季を感じ、エネルギーッシュ  
になりました。（S・N）

## [全私保連推奨] 各種団体保険制度



有限会社ゼンポ



東京海上日動

### ほいくのほけん・こどもえんのほけん

保育施設向け 4月1日～1年間（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

「園賠償責任保険」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険）」「職員団体傷害保険（総合生活保険）」など、保育施設における最大リスクを補償する1番の主力保険制度です。

### やくいんのほけん

社会福祉法人向け 8月1日～1年間（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクやマスコミ対応費用等のレビュー・リテーションリスクに加えて、雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプション付帯可能な保険制度です。

### えんじのほけん

在園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

「国内外問わず24時間お子さまをお守りする傷害保険」「扶養者に万が一の場合の育英費用補償」など手厚い補償内容に加え、一般的な保険商品と比較して約65%の割引となっているため非常に割安な保険制度です。

### しょうがくせいのほけん

卒園児向け商品 4月1日～自動更新（中途加入可能）

Web  
加入  
可能

24時間のおヶ等からお守りすることに加え、学校からの貸出タブレットを含め個人賠償責任保険など卒園後のリスクを補償します。本商品も一般的な保険商品と比較して約30%の割引となっているため割安な保険制度です。

取扱  
代理店

有限会社ゼンポ

TEL : 03-3865-3881

FAX : 03-3865-2806

引受  
保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

担当課支社：公務二部 文教公務室 TEL : 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・リピュテーション費用保険（リピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要・団体総合生活保険（傷害保険）の概要についてご紹介したものであり、全ての事項を記載しているものではありません。保険の内容は各保険制度のパンフレットをご覧ください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。

連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL 03-3865-3881

FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10全国保育会館4階

無制限の動画や写真を通して、園と保護者の絆を深める連絡アプリ

全国私立保育連盟推奨（総代理店）



きっずノート

「きっズノート」は長く使い続けていただけるよう

すべての機能使い放題／

初期費用0円・追加料金一切なし

月額 5,500円(税込)のみ

# 無料体験実施中! →

お申し込みは  
コチラ

ご相談・ご質問はお気軽に

きっズノートサポートセンター

TEL 03-3865-3886